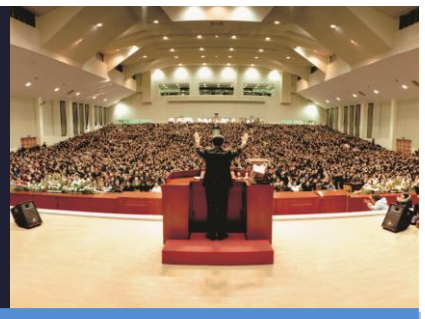
第 2017-41 号

恵みと真理のニュース



2017 年 10 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

悲しみが変えらせて喜びになってくださり、主に献身するように天の父の恵みと愛に感謝します

私は学校勉強を終えて社会生活を始める頃、叔母から伝道され恵みと真理教会に来て決信し信仰生活をしました。ところが、神様がどなたなのか、イエスキリストをなぜ信じるべきか、また、どのように信じ仕えるのか知りたい心もなく、御言葉と恵みを愛する心もなく、主日だけ教会に行ったので礼拝を参席してもあまり信仰が成長しませんでした。

そんな状況で結婚をして私の人生に初めて負えない大きい問題にあいました。ある日は普通と違い調子が悪くて病院に行きました。検診を終えて医師は私が妊娠をした状態ですが、子供の姿を見えないから時間をおいてみましょうとしました。その話を聞く瞬間、目の前が真っ白く見えました。とても期待した赤ちゃんだったので失望も大きかったです。しかし、この時、患った痛みによって真心で神様に出て神様を畏れ委ねるようになりました。今考えると子供を失った後、その状況が絶望的で大きく落胆して神様を恨むほどですが、私は恨まなかったです。恥ずかしい信仰でしたがその小さい信仰を持ったので勇気を出して立つことが出来ました。

以前と違って正しい心で神様に礼拝を捧げ御言葉で恵みを受けて新しい力を受けました。心を尽くして賛美し祈ると聖霊様がくださる慰めと平安が溢れました。朝早く捧げる礼拝で聖霊洗礼を受けました。主の中で新しく生きるよろこびで満たされました。そして、その日、寝る中で奇異な夢をみました。神様はその夢を通して私に赤ちゃんをもつようになるという希望をくださいました。そして、その子供をうしなった悲しみを忘れてもっと明るい姿で生活して真実な信仰で主を仕えることが出来ました。信じ希望した通り妊娠をしました。以前と違って神様がくださった赤ちゃんのため休まずに祈りました。神様の恵みと愛に感謝し、また健康な赤ちゃんを出産するように祈りました。そして、ついに希望が叶えられました。きれいな娘を産みました。

私の娘は私たちの夫婦の期待の通り神様の愛をたくさん受けて健康で育てられました。ところが大学入試を控えて娘も夢がありましたが、一方親の期待に応えられないと思って悩んでいる娘の姿を見ました。子供に対する母達の嘘は"健康に育ってくれ”と言うように私も娘の進学と将来に対しては普通のお母さんたちのように大きい期待とを持っていました。ところが悩んでいる娘を見て私の心を変えて欲から捨てました。

神様がくださった子供であることが思いだしました。子供を求めて祈るときに神様に約束する心で祈ったのが思いだしました。私の欲の通りにならなくて主が思う通りになるのが良いのであることを考えました。自分の考えを捨てて神様に委ねました。それで、秘かに朝早く起きて娘の信仰が成長するように見守ってくださった神様に感謝し賛美を捧げました。そして、神様に栄光になり主に喜びとなるように願い切に祈りました。

娘も神様に祈って進路を決めた後、次の結果に恋々としなくて毎日最善を尽くす心で残った時間、勉強しました。すると、神様は娘に合格の喜びを与えてくださいました。娘は教会学校で私と共に教師として熱心に奉仕しました。私たちのは互いの為祈って愛し、同じ心で主を仕える信仰の中で共に働く者です。神様に栄光を捧げます。

苦難にあったとき勝つ力を下さって切ない期待と希望を成し遂げてくださった神様、苦難が福になるようにしてくださった恵みに感謝します。そして、教会学校の教師として今の入試の進学と進路の問題で悩んでいう子供達に主の大きい慰めと平安が望んでその心にサタンが入らないように聖霊様が守ってくださるように祈ります。

心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、
常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。（箴言3：56）　あなたの業を主にゆだねれば／計らうことは固く立つ。　人間の心は自分の道を計画する。主が一歩一歩を備えてくださる。（箴言16：3，9）アーメン！アーメン！

［信仰コラム］

旅人であり寄留者のような人生

"これらの人はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。...”（ヘブル人への手紙 11:13～16）

人にはこの世での生活が全部ではないというのを聖書が明らかに啓示しています。人生は必然的に迫る死の後に他の世界で生きるようになります。死とは肉体と分離された魂が向こうの世界に移っていく一つの過程です。その世界は一つではなく二つであります。天国と地獄です。このような啓示と関連して聖書は私達がこの世でどのような身分で生きていて、どのように生きるべきかを教えてくれます。

第一に、全ての人はこの世で旅人であり寄留者として生きるいることを確実に認識すべきです。聖書はこの世で生きるいる人を行人、旅人、寄留者として指称することで全ての人が臨時に留まり居留する者という事実を表しています。なのにも人々はまるでこの世で千万年を生きるような錯覚をします。死について考えたり話すのをはばかります。死の時期を最大限に遅延したり更に、死を征服する道を模索しています。そうするとしても数年あるいは数十年寄留者としての生活を延長するだけです。

第二、寄留者の人生として正しい生活態度を信仰の先進達から見習うべきです。

アブラハムはこの世で寄留者としている時、神様の言約を固く信じることで 2 千年後にメジヤがお越しになるのを信仰を通じて見て喜びました。アブラハムとイサク、ヤコブは大金持ちで生活したが ' 神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたから ' 堅固な家を建てず天幕で生活しました。アブラハムは決心さえすればいつでも古里に帰ることができたが、帰りませんでした。聖徒は怯んで滅びる者にならないようにすべきです。信仰の先進達が慕った古里は天にある所でした。そこにはもはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも夜もありません。汚れた者、忌まわしいことと偽りを行う者がいません。口で表現できない程に美しくて光栄の所であります。聖徒達は逼迫と艱難が多いこの世で生活するが挫折せずに天にある古里を慕いながら生活しなければなりません。

第三、聖徒達は寄留者の道を一人で歩まないで主と同行すべきです。

イエス様の弟子達は毎日イエス様と同行しました。しかし、イエス様が死に関してお話しなさると孤児になったような心情でした。このような弟子達にイエス様は " わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。" という驚くべきな約束をなさいました。約束なさった通りに復活昇天なさった後、聖霊を送らせてくださいました。

聖霊を受けた弟子達は毎日主と同行する生活をしました。弟子達と初代教会の聖徒達は聖霊が神秘な能力や影響力ではなく彼らの中で人格的に実在なさる主であることを知りました。彼らは聖霊様なしには何のこともできませんでした。聖霊様に尋ねて議論し、指示に従って活動しました。教会と信者が聖霊様を無視して聖霊様の中で生きることができない時、無力で悲惨な信者になってしまいます。教会が建物だけ残って教理と儀式、制度だけ残して命を失うのは聖霊様との交わりを喪失したからです。

皆さんは、この世で寄留者としての生活をしながら何でも聖霊様に議論してください。心の願い、感じ、説教、聖書に御言葉を通じて聖霊様が教えられて導かれてまた、指導なさることを注意深く調べて全幅に従ってください。そうすると神様の能力と光栄が充満な生涯を生きることができます。この世では旅人と寄留者という事実を深く認識して常に天にある古里を慕いながら生きてください。そして聖霊としてお越しになり誠に良い同行者になってくださる主と共に寄留者の道を歩んでください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

これらの祈り（4）

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

祈らないクリスチャンはありません。神の恵みに感謝して祈り、神の力と愛に頼って助けを求めています。しかし、祈ることが生活化され、祈りの時間が全く楽しい聖徒になるまでに祈ることを学ぶ過程が必要です。聖書には、重ねて言い付る祈り、疑いながら 求める祈り 、貪欲で求める祈りは、神が聞かないとしました。切実な祈り、信仰の祈り、神の御旨にふさわしい祈り、絶えずに祈りをしなさい聖書には、信仰の偉人たちが祈った内容と当時の状況について記録されています。これは、私たちに有益で良い例になります。今日は使徒パウロの祈りについて説明します。

まず、エペソ 1 章の祈りを見てみましょう。

どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、イエス・キリストによって、罪人を救われ、神の子供になるのを知らなければ、神を知っていることはできません。これらの知識は、人が研究して観察して得られることが出来ません。「知恵と啓示の精神」が必要です。「精神」と翻訳された単語は、「霊」とも翻訳されます。文章を見たとき、聖霊様を意味するものです。聖霊様が知ることによって与えなければ人がイエス・キリストと父なる神を知ることができません。ですから、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示の霊を下さっ神を知るように祈るべきです
あなたがたの心の目を明らかにして下さるのを祈りました。
未信者と信者の違いは霊的なことについての認識能力にあります。聖霊に満たされ 聖徒とそうでない聖徒の間でも認識能力に差があります。キリスト教会を迫害したパウロがダマスコのクリスチャンを逮捕しようとダマスコの近くに達した時でした。正午の太陽よりも明るい光が彼を照らしたので地面に伏せました。その強烈な光のために視力を失いました。ところが、驚くべきことに栄光と威厳の中に現れたイエス・キリストを見ました。聖霊様が彼の霊の目を開いてくださったことです。使徒パウロがエペソ教会の信徒たちの心の目を明らかにしていただき救ったのは、彼のダマスコ道で体験から出たものでもあります。使徒パウロは、心の目が明るくなると知るようになったことが何なのかを、以下のように列挙しました。
まず、召された望みを知っている。
神の召しを受けて、イエスを信じるようになった人は、様々な希望を持つようになります。そして、その望みは行われます。
1）患難が有益になるという希望です。
ローマ人への手紙，8 章 28 節に「 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。 」としました。
2）迫害を受けることが幸いになるという希望です。 ″義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである 天国は彼らのものである」（マタイによる福音書，5:10）とイエスが自ら言われました。
3）主のしわざに労苦すると将来キリストの裁きの座で報いを受けることの望みです。
「 だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである。」（ コリント人への第一の手紙，15:58）しました。 「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。」（ ヨハネの黙示録 22:12）としました。
4）死の瞬間に天国へ行くという希望があります。体のカーテンが崩れると魂は天使たちにささげられて天国に入ります。
5）体の復活に対する希望があります。イエス再臨の日に復活します。復活した体は強い体であり、死なない栄光の霊的な体です。
第二に、その企業の栄光の豊かを分かります。
聖徒たちに与えられた企業は、天に積み上げておいた腐らず汚れず衰えないことです。天国で永遠に享受する幸せです。聖徒たちは神の子供であり、天国の市民です。これより栄光の身分と地位はありません。
第三に、施された能力の極めて大きいを知っている。
1）私たちにくださった極めて大いなる力は、世の中に勝つ能力です。 「 なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である 」（ ヨハネの第一の手紙，5 ：4）としました。
2）私たちにくださった極めて大いなる力は悪魔に向かって退ける能力です。悪魔は人よりも強いです。しかし、イエスは悪魔よりも強いです。イエス・キリストを信じる人が大胆に敵対すると悪魔は退いていきます。 「 そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう 」（ ヤコブの手紙，4 ：7）しました。
3）私たちにくださった極めて大いなる力は迫害と患難と試験を勝つ能力です。
ヘブル人への手紙 11 章を見れば、神の力を受けて勝利した人のお話が記載されています。神の極めて大いなる力がダニエルに臨んで獅子の穴に投げたが、 獅子の口を封じてしまう神の力を体験するようになりました。シャデラク、メシャク、アベデネゴは炉の中に投げたが、火は、それらを燃えられないようになって神の力を体験するようになりました。
少数の兵力として海の砂のように多くの敵を打って勝つもしました。しかし、ある時には殉教も受けました。物理的な苦痛は深刻したが、それを超える神の慰めと力でその苦痛を勝って壮大な殉教をしました
私たちの心の目が明るくなるほど召さの希望、その企業の栄光の豊か、施さ能力の極めて大きいに対してもより深さは、もより多くのがわかります。ですから、皆さんは、使徒パウロのこれらの祈りを模範で祈ってください。
.

次は、エペソ 3 章の祈りを見てみましょう。

使徒パウロは、父なる神にひざまずいて祈りました。
ひざまずいて祈りは謙虚さと切実な心を表す姿勢です。謙虚さと切実は神に祈る人が持つべき基本姿勢です。
使徒パウロは、神の栄光の豊かさにしたがって、聖霊によって、あなたがたの内なる人を力で強めにして祈りとしました。
内なる人は、精神的な自我を指します。イエス・キリストを信じる内なる人が聖霊に新しい命を得て生まれ変わります。生まれ変わった内なる人は、神の御旨と神の栄光を追って判断して決定しようと努めます。生まれ変わった内なる人は聖霊によって強めています。神の栄光の豊かさは、限りないので、私たちの内なる人が強めてなることをいくらでも求めることができます。内なる人が患難と迫害と試験を十分に勝つことができます。
使徒パウロは、信仰によって、キリストがあなたがたの心の中におられることを祈りました。
イエスは肉体でこの世にいらしゃったとき、弟子たちがイエスのみもとに行かなければならなかった。しかし、 五旬節の日、聖霊様が弟子たちに臨んだ後は、聖霊様が弟子たちに 臨在して助けを下さいました。今日も同じです。けれともパウロがこのように祈ったのは、キリストが臨んでおられることを認識して感じるのは深さで差分があるからです。イエスキリストが心におられることを深く認識して感じたら、主の喜びと平安が心に一杯になります。主の喜びと平安は、世が与えるものとは異なるものです。世が与えることができず、奪うことができません。
使徒パウロは、あなたがたの愛の中で根が刺さっからは固まって、すべての聖徒とともにイエスキリストの愛を知って、その幅と長さと高さと深さがどうであることを悟って、神のすべての充満したことを満たされることを求め仰せられるました。
1）クリスチャンの信仰は、キリストの愛の中で根が刺さっからが固まっ必要があります。
2）キリストの愛はすべての測定するのがありません。その広さと長さと高さと深さは、限りないので、キリストの愛が及ばないところがありません。人種、男女、老若男女、社会的地位で差別がありません。キリストの愛は、悔い改める者に遅滞なく直ちに臨みます。
3）聖徒たちが一緒に礼拝して一緒に伝道して、一緒に奉仕しながら、キリストの愛を学び、体験するより深く、より豊かな愛の体験をすることができるようになります。
4）キリストの愛を実現することに比例して、神の充満を体験する分量が加えます。
皆さん、イエス・キリストの愛を探検しなさい。その広さ、長さ、高さ、深さを見てください。このたびに、私が知るよりも深い、より高い、より広い、より長い。このように感動することになるでしょう。キリストの愛のために満足している勇氣を得て楽しくて感激の涙を流したものと比例して、神の満ちたもので満たされるでしょう。

今まで見た使徒パウロの祈りが皆さんに手本になって、その祈りの内容があなたの体験になって証しになることを願いします。